

羅針盤

令和3年度第7号(通算333号)
令和3年9月27日(月)発行
岡山県総合教育センター 企画部
Tel (0866)56-9102 Fax (0866)56-9122

児童生徒のSOSに組織的に気付き、対応できていますか？

2学期になり、1か月が過ぎようとしています。児童生徒の様子はいかがでしょうか？今年度もコロナ禍で通常よりも強いストレス下での生活を余儀なくされています。児童生徒のもつ不安や悩みに早く気付くことが、不登校やいじめなどの未然防止や、安心して学習に向かう土台づくりにつながります。



【キーワードは“見る”と“聴く”、そして“集める”。児童生徒の実態把握を!】

“見る”

- 普段の表情
- 体調(頭痛・腹痛など)
- 友人関係
- 授業中の姿勢や集中の様子
- 服装・頭髪
- 家庭環境
- 生活ノートなどの記述 など

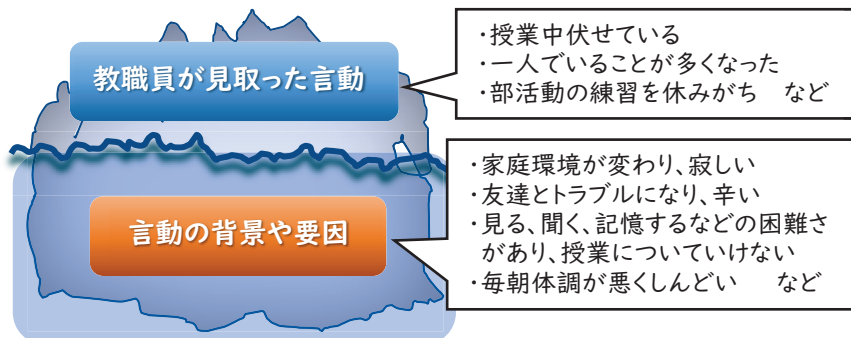
“聴く”

- 教師との会話(積極的に話を聴く)
 - 友人との会話
 - 授業中のグループ内での発言
 - 教育相談 など
- ※児童生徒の「大丈夫」を鵜呑みにせず、注意すること。「言葉の向こう側にあるもの(心)」を感じ取る。

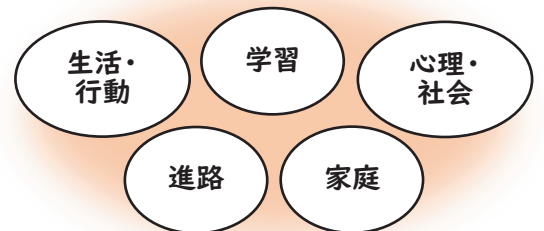
“集める”

- 教科担任から
 - 他の児童生徒から
 - 養護教諭・SC・SSW から
 - クラブ・部活動顧問から
 - 保護者・地域から など
- ※生徒指導、特別支援教育コーディネーターと担任が連携する。

児童生徒の心のSOSをキャッチし、適切な支援をしていくためには、表に見える言動だけでなく背景や要因まで考えることが大切です。そのためには、学校内で担任一人に任せるのではなく、児童生徒を多面的に捉えるシステムの構築が必要になります。教職員が見取った情報を共有する場(校内ネットワーク等)を設定しましょう。



多面的な理解 ⇒ 適切な支援に!



(「アセスメント力向上パッケージ」(県総合教育センターHP)から)

また、予防的・開発的な生徒指導も大切です。児童生徒が学校で安心して過ごせる「居場所づくり」を進め、お互いに認め合い支え合うような「絆づくり」につながる場面を意図的に設定していきましょう。

【不登校やいじめの未然防止に ～開発的生徒指導の具体的な取り組みを～】

居場所づくり

児童生徒が安心してできる、自己存在感や充実感を感じられる場所を**教職員**がつくる。

- ・学級の中で守るべきルールを全員が納得の上で徹底する(いじめや暴力を許さない)。
- ・課題や人間関係の悩みを抱える児童生徒に寄り添う。
- ・対人関係のトラブルが起きないようなソーシャルスキル教育を行う。
- ・児童生徒が互いに自己開示を行ったり協力したりするような取組を行う。

絆づくり

主体的に取り組む協働的な活動を通して**児童生徒**自らが絆を感じ取り、紡いでいく。

- ・全ての児童生徒が活躍できる場を経験する中で、「自己有用感」が高まり、互いを大切に作る集団づくりにつながっていく。
- ・話し合いで互いに異なる意見を理解し、合意形成を図る中で、人間関係づくりの力を養っていく。
- ・他者と協働して一つのことをやり遂げる活動を通して社会性を身に付け、児童生徒間の心の結び付きや信頼感を高めていく。

